令和５年度　学校評価計画【後期】

a. よくあてはまる
b. ややあてはまる

白山市立笠間中学校

重点目標			具体的な達成目標	担当	現状	具体的実施計画	指標・評価の観点	達成基準（ａｂ評価）	集計結果（前回）	分析（成果と課題）及び改善策	判定基準	備考
1 組織的な学校運営	1	カリキュラム・マネジメントを組織的に行う。	全教職員が育成を目指す子どもの姿を明確に持ち，主任を中核に同じベクトルで学校教育活動に取り組むこと。	教科部会 学習・研究部 **教務主任（友田）**	育成を目指す資質･能力を「考えを伝え合い，広め深める力」とすることを全教職員で共通理解している。	研究部だけではなく，生徒指導部，特別活動部とも連携し，育成を目指す子どもの姿を実現するための取組や手立てを組織的に行っていく。	教師は，カリ・マネの柱「考えを伝え合い，広め深める力」を意識して，学校教育活動に取り組んでいる。	カリ・マネの柱「考えを伝え合い，広め深める力」を意識して，学校教育活動に取り組んでいる教職員が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【教師】⑲　評価B(A)** **a 29%(29%)** **b 59%(71%)** **計 88%(100%)**	**「考えを伝え合い、広め深める力」の育成にむけて、学習・研究部による授業改善や生徒指導部による温かい人間関係づくりの取組など、評価、改善を図りながら組織的に学校教育活動を行ってきた。また、全教員が同じベクトルで取り組めるよう、カリマネを図で表して「見える化」し共通理解を図ってきた。今後もどんな力をつけたいのかを意識しながら教育活動を行えるよう、全員で共通理解を図ったり、評価、改善を図ったりする場面を設定していく。**	Ｃ・Ｄの時，教務部会及び主任会で再検討する。	教員⑲
	2	組織的で効率的な学校運営を推進する。	業務を効率的に進めるために，役割分担を明確化し，関係職員との連携を図る。	主任会議 企画運営委員会 **教務主任（友田）**	主任を中心とした組織的な学校運営を図るとともに，ICT機器を活用して効率的に連携を図っていく必要がある。	・主任会議等で取組内容や状況を共有するとともに，各分掌の取組に活かす。 ・C4th等を活用して，予定や連絡などをこまめに確認し，関係職員との連携を図る。	教師は，業務を効率的に進めるために，役割分担を明確化し，関係職員との連携を図る。	役割分担を明確化し，関係職員と連携しているとした教職員が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【教師】⑮　評価 A (A)** **a 39%(35%)** **b 56%(65%)** **計 94%(100%)**	**職員間の連携が図られていると感じている教員が多い。主任会議や企画運営委委員会を戦略会議として、分掌部会や学年会など主任を中心として組織的に行われている。また、様々な業務にC4thやTeams、tetoruなどのICTを活用することで、効率的な連携にもつながっている。今後も主任を中心とした組織的な学校運営を行うとともに、業務改善を進め効率化を図っていく。**	Ｃ・Ｄの時，主任会議で再検討する。	教員⑮
2 確かな学力の形成	1	笠間学習スタイルを基に，活用力の育成を目指した校内研究を推進する。	意見を交流することで考えを深め，生徒自身の言葉でまとめるという活動を授業の中で取り入れることで，思考力・判断力・表現力を育成する。	学習・研究部 **研究主任（福田茜）**	基礎・基本は身についてきているが，さまざまな考えや情報をふまえて，生徒自身が自分の考えを持ち，適切に表現することが十分にできていない。	・授業の終末で，生徒が学んだことや考えたことを，理由や根拠を明確にし，自分の言葉でまとめる時間を設ける。	生徒が「授業で互いの考えを伝え合うことを通して，自分の思いや考えを深める」ことができている。	授業で互いの考えを伝え合うことを通して，自分の思いや考えを深めることができている生徒が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【生徒】⑨　評価 A(B)** **a 33%(31%)** **b 57%(57%)** **計 90%(88%)** **【教師】⑨　評価C(C)** **a 29%(47%)** **b 41%(29%)** **計 71%(76%)**	**生徒が主体的・対話的で自分の思いや考えを深められるように，ICTの活用に力を入れて授業実践をおこなってきている。肯定的評価は９割に達しており，効果が表れてきている。今後は，α評価がさらに増えるよう，授業のタイムマネジメントの意識と授業の終末で生徒自身が学んだことの振り返りを行える時間の確保を継続する。**	Ｃ・Ｄの時，研究推進委員会で再検討する。	教員⑨ 生徒⑨
	2	課題解決に向けた自主的な学習習慣（家庭学習）の定着を図る。	自主的に家庭学習に取り組む習慣を身につける。	学習・研究部 **研究主任（福田茜）**	家庭学習時間が少ない傾向が感じられ，意欲的な生徒とそうでない生徒との二極化傾向である。	・年４回の家庭学習強化週間を設け，目標時間を達成できるように支援する。 ・テストの計画を生徒自身が考え，実行できるように支援する。	生徒は，予習や復習，宿題などの家庭学習を行っている。	予習，復習等の家庭学習を行っている生徒が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【生徒】⑧　評価 D(D)** **a 26%(19%)** **b 42%(45%)** **計 68%(65%)** **【保護者】⑦　評価 D(D)** **a 14%(15%)** **b 40%(44%)** **計 54%(58%)** **【教師】⑧　評価 A(A)** **a 47%(47%)** **b 47%(47%)** **計 94%(94%)**	**１，２年生において，朝の時間に毎日取り組んだ課題を担任に見せるという取り組みを開始したり，笠マラソンの実施方法を変えたりと，１学期とは違う取り組みを行ってきた。生徒のα評価は少し上がっているが，肯定的評価が高いとは言えない。また，教員の意識と生徒の意識に乖離があるため，生徒の行動や意識につながる取り組みや声かけ，個別の対応を吟味していく必要がある。**	Ｃ・Ｄの時，研究進路指導部会で再検討する。	教師⑧ 生徒⑧ 保護者⑦
	3	将来への夢や目標を持ち，進路実現に向けた教育実践を図る。	自己実現を目指し，将来の夢や目標に向かって学習をしている。	学習・研究部 **進路指導主事（浅見）**	１年次「職業講話」２年次「企業訪問」を実施している。自己の将来設計をしている生徒は，まだまだ少ない。	学活，総合などの時間を活用し，生徒が将来設計できる時間を確保し，現段階の自分の進路について考える。	生徒は，自分の進路について考えを広げようとしている。	自分の進路について考えを広げようとしている生徒が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【生徒】⑥　評価 B(C)** **a 33%(33%)** **b 51%(44%)** **計 84%(77%)** **【教師】⑤　評価 A(A)** **a 71%(59%)** **b 24%(41%)** **計 94%(100%)** **【保護者】⑥　評価 D(D)** **a 15%(20%)** **b 45%(42%)** **計 61%(62%)**	**１年生はフィールドワークや職業講話，2年生はtobiraドリームプロジェクトや進路コンパス，高校調べを実施し，職業に触れ，調べたり聞いたりしたことをまとめる活動を行った。保護者の評価が低い。学校での取り組みをＨＰや各種通信でお知らせし，各家庭で進路について話をする機会を持たせたい。**	Ｃ・Ｄの時，研究進路指導部会で再検討する。	教員⑤ 生徒⑥ 保護者⑥

重点目標			具体的な達成目標	担当	現状	具体的実施計画	指標・評価の観点	達成基準（ａｂ評価）	集計結果(前回)	分析（成果と課題）及び改善策	判定基準	備考
３ 豊かな心の育成	1	学級経営の充実を図り，信頼に基づいたあたたかい人間関係作りを目指す。	言語活動の基盤となる学級で，穏やかで安心できる人間関係づくりを図る。	学年主任 生徒指導部 **教育相談担当（北室）**	各学年，各学級で人間関係によるトラブルは減ってきているが，悩みを持った生徒も少なからずいる。	構成的グループエンカウンターによる授業，授業での自己評価や相互評価，ＱＵアンケートを実施し，生徒の自己理解と相互理解を図れるようにする。また教員との定期的な懇談を実施する。	生徒は，学級や学年の中で認められていると思う。自分の好きなところがある。	学級や学年の中で認められているという生徒が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【生徒】⑯ 評価 B(C)** **a 20%(24%)** **b 60%(54%)** **計 80%(79%)** **【教師】⑰ 評価A(A)** **a 47%(47%)** **b 47%(53%)** **計94%(100%)**	**昨年と同程度の評価となっている。教師の評価もＡ評価となっており，毎月の生活アンケートの実施や日頃の声かけや面談，校内研修も行うなど生徒理解に努めてきた成果と考える。また，「いじめの種」をまかないことや「かさま言葉」の浸透を促す集会の実施，生徒会執行部での「かさまえき」の取り組みなど，全校生徒，教職員が共通意識を持って学校生活を送っている成果と言える。またこれまでと同様，学校学年行事，日頃の授業のなかで自己評価や振り返りの時間を確保することで生徒が互いを認め合うことはできていると思われる。今後も気になる様子があれば懇談の時間を確保していく。**	Ｃ・Ｄの時，生徒指導部会（生徒活動部）で再検討する。	教師⑰ 生徒⑮
	2	道徳教育の充実を図り，正しい判断力，行動力を育成する。	道徳の授業を要として，授業や学校行事との関連性を活かしながら，正義感のある集団づくりを図る。	学習・研究部 **道徳教育推進教師（福田紗）**	道徳の年間授業数は確保できている。また，各教科との関連性をふまえた年間計画が作成されている。	校内研究で道徳の授業モデルを示した上で，学校全体で共通の道徳内容項目の授業を実施し，地域教材の活用をはかる。	生徒は，道徳の時間に考えたり他の意見を聞いたりしたことを意識して，学校生活を送っている。	道徳の時間で学習したことを意識して，日常生活を送っている生徒が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【生徒】③ 評価 A(A)** **a 34%(34%)** **b 58%(57%)** **計 91%(91%)** **【教師】⑦ 評価 D(B)** **a 24%(35%)** **b 41%(53%)** **計 65%(88%)**	**各学年や学級で，さまざまな工夫を取り入れながら道徳の授業を実践してきた。ICTで自分の思いを表出するためのツールも幅広く活用され，生徒が意見を広く発信できたり，多くの意見に触れたりする機会を増やすことができたと考えられる。一方で，道徳の時間と日常生活がつながらず，切り離された存在になっている場合もあり，せっかくの学びや発見が生かされていない場面もあるように思われる。そこで，道徳の学びが理想だけで終わらずに，日常生活で生かされるような導入や展開・終末そして振り返りにつながっていくような工夫を検討していきたい。**	Ｃ・Ｄの時，研究推進委員会で再検討する。	教師⑦ 生徒③
４ 規範意識の育成・主体的な生徒活動	1	環境美化活動や奉仕活動を通して，情操教育の推進を図る。	日々の清掃活動に無言で黙々と取り組むことで，気づきの心・我慢する心・感謝する心などの育成を図る。	健康安全部 **生徒指導主事（村松）**	無言清掃は徐々にできるようになってきた。気づいた所を隅々まで清掃している生徒がいる一方で，掃除に関係のない話をしている生徒もいる。	・掃除の最後に振り返りを行うことで,次の掃除につながるようにする。 ・無言で清掃を行うことで，つけてほしい力や意義を全校集会で伝える。また，美化委員会を中心に強化週間などを設ける取り組みを行う。	生徒は無言で行い,隅々まで意識して汚れているところを自分で見つけ,時間いっぱい掃除に取り組んでいる。	無言清掃を通して，気づきの心や我慢する心，感謝する心などの力がついた生徒が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【生徒】⑰ 評価 A(B)** **a 39%(32%)** **b 52%(48%)** **計 91%(81%)** **【教師】⑱ 評価A(B)** **a 53%(29%)** **b 41%(59%)** **計 94%(88%)**	**後期から団で縦割り清掃を実施した。その結果，abの合計が１年生は88％（前期比＋14％），2年生は87％（前期比＋8％），3年生は97％（前期比＋9％）と全学年で評価が高くなった。3学年が同じ場所で清掃することで，3年生は最上級生として見本になり，1･2年生は先輩の姿を見て行うなど，どの学年においても良い効果が結果として出たことが推測される。しかし，場所によっては先輩後輩が仲が良く話をしていたり，スタートが遅かったりする所がある。来年度も縦割り清掃を継続していきながら，より効果が得られるような取り組みや方法を考えていきたい。**	Ｃ・Ｄの時，健康安全部会で再検討する。	教師⑱ 生徒⑯
	2	生徒会等の自治活動を推進し，学校行事や挨拶運動等の充実を図る。	学級や学年，生徒会活動において，主体的に活動する生徒の育成。	特別活動部 **生徒会担当（吉田基）**	生徒会執行部を中心に，委員会活動などの取り組みが活発になっている。活動内容の精選を図っていく際に，委員会で取り組む内容と１人1人が意識し，改善できることを区別する必要がある。	生徒会役員を中心に全校集会を運営したり，委員長を中心に専門委員会の活性化を図っていく。また，学校をよりよくするために１人１人の意識向上を図れるような取り組みを行っていく。	生徒は，学級や学年，生徒会活動において，学校に参画しているという意識を持って，主体的に活動している。	学校活動において，主体的に活動しているとした生徒が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【生徒】④ 評価 C(C)** **a 26%(30%)** **b 49%(49%)** **計 75%(79%)** **【教師】③ 評価 B(A)** **a 41%(65%)** **b 47%(29%)** **計 88%(94%)**	**生徒会執行部や専門委員会、学級代表、書記などを中心に学校や学年がよりよくなる取り組みを進めてきた。責任を持って取り組める生徒が増えてきてはいるが、あまりフィードバックをしてあげれていない現状にある。「かさまえき」の活動などを学校活動にしぼって書いてもらい、自己肯定感をあげる材料にして、土の子らしくコツコツと努力したり、係の仕事をしっかりとしている生徒に脚光をあげ、毎日の学校生活を前向きに頑張れる環境作りをしていきたい。**	Ｃ・Ｄの時，生徒指導部会で再検討する。	教師③ 生徒④
５ 家庭・地域との連携	1	保護者や地域とより良い連携を行い，学校教育に取り組む。	HP・学校・学年・学級便りで日ごろの学校活動の様子を発信する。	教務部会 主任会議 **学年主任（村上）**	HPや各おたよりで学校生活を発信している。一方で，おたよりを家の人に見せていない生徒も複数見られる。	HPの閲覧数は多いので，各おたよりをHPに定期的に載せる。	保護者はHP・学校・学年・学級便りを通して，学校生活の様子を知っている。	HP・学校のおたよりを見ている保護者が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【保護者】⑬ 評価 A(A)** **a 20%(24%)** **b 71%(67%)** **計 91%(91%)** **【教師】⑳ 評価 B(B)** **a 41%(53%)** **b 47%(35%)** **計 88%(88%)**	**保護者からは、前期に引き続いて多くの肯定的な回答をいただいている。HPに授業の様子を多くの回数載せていること、部活動や諸連絡をtetoru配信していたことも要因であると思われる。活動を継続していくことと同時に、前期からの課題でもあった、生徒が保護者におたよりを確実に渡すことを、これからも生徒に継続的に声かけをしていく必要がある。**	Ｃ・Ｄの時，主任会議で再検討する。	教師⑳ 生徒⑱ 保護者⑬
	2	外部講師等，地域の人材を活用するとともに，同窓会との連携もはかり，開かれた学校づくりを推進する。	地域の人材および卒業生を講師として招聘したり，各種学校行事等を通じ，生徒の郷土愛を育む。	教務部会 主任会議 **学年主任（吉田し）**	２年生の「土の子講座」や進路学習等で外部講師による講座を実施している。「職場体験」の実施は今年度も難しい状況である。	・生徒の希望に添えるような講座を開設していく。 ・「職場体験」に替わる活動を取り入れていく。	生徒は，地域（人・自然・文化）の良さを理解し地域が好きである。	地域（人・自然・文化）が好きとした生徒が ９０％以上：Ａ ８０％以上：Ｂ ７０％以上：Ｃ ７０％未満：Ｄ	**【生徒】⑳ 評価 B(B)** **a 42%(44%)** **b 44%(44%)** **計 86%(87%)**	**「私は、この地域・郷土（人・自然・文化）が好きである。」この項目にたいしては、ここ数年後期が前期より５％程度上昇する傾向があった。今回は肯定的な回答をした生徒の割合は横ばいであったがは86％と高い数値を維持しており、生徒の地域に対する愛着は育っているといえる。１学期は、総合的な学習の時間「土の子講座」において、地域の芸術や伝統芸能を学んできた。２、３学期は、進路学習として「フィールドワーク」、「職業講話」、「企業訪問」など地元を含めた広域からの講師に協力を依頼してきた。今後も地域と連携した様々な取り組みを通して、地域に誇りをもつ生徒を育んでいきたい。部活動の地域移行についても、献身的に関わりを持っていただける方が多く、今年度も着実に前進することができた。**	Ｃ・Ｄの時，主任会議で再検討する。	生徒⑲

学校関係者評価 委員会の意見	･校内研究に関する項目等について、教師と生徒のアンケート結果に開きがある。応用力が不十分と考えられるので、育成を図ってほしい。 ･進路に関する項目は、保護者のアンケート結果が低くなっている。学校側から情報は発信されているので、保護者が関心を持って子どもと話をしていけたらよい。 ･校則の運用や活動への取り組み方については、子どもが1つ1つを理解した上で実施していることが大切である。 ･SNSによるいじめは、表立っての問題になりにくい。悩みを抱えている子どもが相談しやすい雰囲気を大切にしてほしい。 ･不登校や不登校傾向の生徒が増えていることが気がかりである。個別の背景の理解と支援をお願いしたい。 ･学校評価の指標を設定する場合、満足度指標をどのように設定するかが大切である。満足度指標が上がれば、次のモチベーションにつながる。
学校関係者評価 委員会の評価を 踏まえた改善点	･授業改善だけでなく学校教育活動全体を通して、思考力･判断力･表現力の育成を図っていく。 ･一人一人の状況（学習面、生活面）を把握し、その子どもに合った支援の方向や手立てを計画、実施していく。 ･校則等の運用について生徒の意識調査を実施する。 ･学校評価の評価の観点やアンケートの発問について検討していく。